

地方創生関係交付金事業 評価検証 令和3（2021）年度

「協働チーム」による付加価値創出・海外販路開拓

事業概要（全体）

県内の農産物、地場産業（絹製品、食品（地酒含む）等）を担う中小事業者、卸売業者や関連団体等が分野を超えて連携し、生産性向上や国際規格認証取得等による国際競争力の強化、ブランド力強化や販路拡大、戦略的なPRを通じて国内における様々な需要を開拓するとともに、海外市場の「取り込みを進める。

また、豊富な農産物や食品、歴史ある絹製品などを国内外に発信するための重要な拠点となるジェトロ貿易情報センターの設置やコンベンションセンターの開設など経済活動の交流拠点を核に新たな成長分野を創出し、海外販路の開拓とブランド力強化を図る。

令和3年度の実施内容

【農業と地場産業の協働事業】（海外展開のための準備事業）

県及び市町村は、農業生産者、地場産業事業者、卸売業者等が「協働」で取り組む、県産農産物や地場産品の魅力を引き出し新たな付加価値を加えた商品づくりを促進する。また、ジェトロと連携し、農産物生産者、地場産業事業者、卸売業者に加え、商社、弁護士等、広告業者及び海外バイヤーとの「マッチング」機会をつくり、「協働チーム（コンソーシアム）」として活動を促すとともに、農業生産者、地場産業事業者等の交渉力強化を支援する。

【人的ネットワークを活用した海外販路開拓事業】（海外展開事業）

県は、海外市場において影響力のある人物と行政との人的ネットワークを最大限に活用するとともに、さらなるネットワーク拡大を図る事業を実施する。トップセールス、展覧会出展、海外バイヤー招聘、専門家による支援等を通じて、人的ネットワークを構築するとともに、海外販路開拓に取り組む事業者を紹介し、「協働チーム」の取引機会を拡大する。

【輸出とイメージアップの相乗効果事業】（国内と海外の同時事業）

県及び市町村は、農業生産者、地場産業事業者、卸売業者が「協働」で取り組んだ商品を海外でのPR販売、国内での宣伝、イベントでの周知、SNSやメディア等を活用した情報発信を行い、海外と国内の相乗効果を促進させる。

【桐生市分交付対象事業】

- 桐生地場産業販路拡大事業
 - (1)国内外の展示会出展支援による販路拡大促進（事業補助金）
 - (2)東京インターナショナル・ギフト・ショー出展 ※新型コロナウイルス感染症の影響により中止

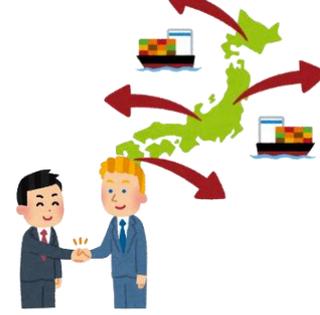
KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

本市が実施する地場産業販路拡大については、新型コロナウイルス感染症が依然として収束せず、先行き不透明な状況が続く中でも、新規取引先の開拓等を希望する市内企業のニーズや意欲等は依然として高い。最近ではコロナ禍でもウズコロナの視点で経済活動を基に戻そうという機運も高まりつつあり、展示会出展を再開しようとする動きも見られることから、市としてもそれに対応した支援が必要と思われる。

こうした観点で、令和4年度は東京インターナショナル・ギフト・ショーの出展を再開するほか、展示会等出展補助金もオンラインを含めた積極的な利用促進を図り、コロナ禍の中でも積極的に支援してまいりたい。

	交付対象事業額（円）	実績額（円）
2018年度		
2019年度	4,793,000	2,485,800
2020年度	4,787,000	630,000
2021年度	4,787,000	1,356,000
2022年度	4,787,000	

※桐生市分のみ



KPI（重要業績評価指標）		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2021年度	2022年度
県産農畜産物の輸出金額（億円）	目標値	10.48	11.17	11.96	12.76	13.55	14.56
	実績値	（基準）	↓10.37	↑12.66	↓11.10	↑14.09	
協働チームの形成数（件）	目標値	0	2	4	7	10	14
	実績値	（基準）	↑2	↓3	↓4	↑10	
協働チームの売上額（万円／件）	目標値	0	200	400	600	800	1,000
	実績値	（基準）	↑6,770.20	↑14,282.70	↑3633.00	↑1,204.68	

↑：目標値を達成 / ↓：目標値を未達成

赤城山広域連携サイクルツーリズム

事業概要(全体)

地域での観光消費を高め、新型コロナウイルスの影響により冷え込んだ地域経済の活性化を図るため、ウィズコロナ・ポストコロナ時代に適合したコンテンツ重視の観光施策として自転車振興を推し進め、サイクルツーリズムの対象区域を拡大し、赤城山周辺自治体や民間事業者など地域の関係者が連携してナショナルサイクルートの指定を目指したサイクルツーリズムに取り組む。

- サイクリストの受入環境整備
- 自転車周遊観光とブランド化の促進
- DMO（観光地域づくり法人/「NPO法人赤城山自然塾」）の推進

令和3年度の実施内容

1. 事務局運営
 - DMO事業の対象範囲を拡大してサイクルツーリズム事業を実施するため、事務局機能を充実させる。
 - DMO・サイクル事業全体の業務管理等マネジメントを行う人材の確保
 - DMO・サイクル事業のマーケティング・マネジメント計画の立案、協賛・連携企業の開拓
 - 体験ツアーの企画、ワンストップ販売システム運用整備に向けた検討
 - 関係者による定期的な会議・研修会の開催、地域人材の発掘・育成
 - サイクリングルートや観光スポットを掲載したガイドブックの作成
2. プロモーション事業
 - サイクリング情報や赤城エリアの観光資源をSNSやポータルサイトで一元的に発信する。
 - 取材、サイト運営、発信業務委託
 - ポータルサイト保守管理
 - 動画制作
3. 赤城サイクルプロジェクト
 - 地域での観光消費を高めるため、サイクリストの受入環境を整備を図るとともに、地域特産を味わいながらルートを走行するイベントを試験的に実施する。
 - サイクリストが休憩や簡易な修理を行える場所の広域的な設置
 - スマートフォンを利用した電子クーポン形式によるスタンプラリー事業の実施
 - e-Bikeのレンタル及びツアーの広域での実施
 - 200ナショナルサイクルートの指定に向けた、先進地視察等を通じた動向調査の実施
 - HPやSNSを通じたルートの紹介や地域の魅力などの発信
 - 地域特産を味わいながら赤城山周辺100kmを周遊するサイクリングイベントの開催
 - 様々な団体・事業者等との連絡調整を行う準常勤職員の雇用
 - サイクルツーリズムに精通した専門人材の確保

※下線部：桐生市負担分

KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

KPIについては、目標値を上回って推移している。
 本事業を担っていた「NPO法人 赤城自然塾」の観光部門が「公益社団法人前橋観光コンベンション協会」に事業統合されたことに伴い、本事業も当協会に継承されたことから、経書により事業の停滞が起らないよう、連携・支援を丁寧に行っていく。
 また、当協会に事業が継承されたことで事業主体としての組織の規模は拡大したことから、そのメリットを生かした事業展開を行っていく。

	交付対象 事業額(円)	実績額(円)
2021年度	1,534,000	1,534,000
2022年度	1,534,000	
2023年度	1,534,000	

※桐生市分のみ



KPI (重要業績評価指標)		2019年度	2021年度	2022年度	2023年度
観光入込客数(千人)	目標値	679 (基準)	684	691.5	699
	実績値		↑ 1,186		
サイクリングガイドの 養成人数(人)	目標値	0 (基準)	6	12	18
	実績値		↑ 6		
多機能ポータルサイト アクセス数(回)	目標値	300,000 (基準)	337,500	375,000	412,500
	実績値		↑ 559,804		
e-Bikeのレンタル台 数(台)	目標値	92 (基準)	112	132	152
	実績値		↑ 132		

群馬県移住支援・マッチング支援事業及び群馬県起業支援事業

事業概要（全体）

【群馬県移住支援・マッチング支援事業（群馬県及び県内全市町村との広域連携事業）】

○東京23区の在住・在勤者が本県に移住し、かつ本事業により設置したマッチングサイトに掲載された求人枠に応募して就業した場合、テレワークによる勤務を行う場合、または地域課題の解決に向け新たに起業し、本事業による「起業支援金」の交付決定を受けた場合等に、最大100万円（2人以上世帯：100万円、単身世帯：60万円）の「移住支援金」を支給する。

※国1/2、県1/4、市1/4負担

○県が振興する産業分野や良好な労働環境に関する認証を取得している法人を移住支援金交付対象とし、それらの求人広告を「魅力ある雇用の場」としてマッチングサイトに掲載するとともに、オープンデータ化することで多くの求職者に求人情報を届ける。また、マッチングサイトから県・市町村等の地域情報サイトに誘導し、本県の良好な自然環境、生活環境、子育て環境とあわせPRすることで、東京圏の優れた人材を呼び込む。

【群馬県起業支援事業（群馬県単独事業）】

起業地の市町村及び各支援機関と連携し、起業地の市町村が抱える地域課題の解決を図る事業で新たに起業する者に対し、起業に要する1/2の額（最大200万円）を補助する「起業支援金」の交付と起業後のフォローアップ支援を実施することにより、本県における起業をさらに推進する。

令和3年度の実施内容

1. 群馬県移住支援・マッチング支援事業

- (1) 移住支援金の支給
- (2) マッチング支援事業
 - ・マッチングサイト開設、運用委託
 - ・求人広告作成支援委託
 - ・広報費

2. 群馬県起業支援事業

- (1) 起業支援金の支給
 - ※執行団体から補助金執行団体を通じた間接補助形式
- (2) 執行団体への補助
 - ・人件費、広報費、外部委員会、事務費

【桐生市分交付対象事業】

○移住支援金の支給
令和3年度実績：4件（群馬県全体：79件）

KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

移住支援金について、東京23区に連続して5年以上在住・在勤という要件が厳しいほか、マッチングサイトにおいて移住者にとって魅力的な求人が少なかったこと、また、煩雑な求人登録手続きに対する企業側の負担感の影響により、目標値の達成に至らなかったものと考え。

令和3年度からテレワーカーや関係人口（本市は要件としていない）等も支給対象となり、令和4年度からは子育て世帯加算も追加されたことから、情報発信及び相談体制の充実に努め、支給者数の増加を目指してまいります。

	予算額（円）	決算額（円）
2019年度	1,000,000	1,000,000
2020年度	3,600,000	1,000,000
2021年度	3,600,000	3,200,000
2022年度	11,200,000	
2023年度		

※桐生市分のみ



KPI （重要業績評価指標）		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
本移住支援事業に基づく移住就業者数（人）	目標値	0	240	431	880	1,375	1,870	2,365
	実績値	(基準)	↓0	↓0	↓4			
本移住支援事業に基づく移住起業者数（人）	目標値	0	4	9	14	19	24	29
	実績値	(基準)	↓2	↑10	↑15			
本起業支援事業に基づく起業者数（人）	目標値	0	30	60	90	120	150	180
	実績値	(基準)	↓26	↓57	↑92			
マッチングサイトに新たに掲載された求人数（件）	目標値	0	1,000	2,000	3,000	4,000	5,000	6,000
	実績値	(基準)	↓432	↓1,147	↓1,674			

桐生が岡公園拠点整備計画

現況と課題

動物園と遊園地からなる桐生が岡公園は、本市の観光誘客施設の中で最も集客力の高い施設であり、子育て世代を中心に、市内外の子どもから大人まで幅広い世代に親しまれており、映画やドラマ等のロケ地として活用されることも多く、本市のイメージアップに大きく寄与してきた。

しかしながら、動物園における集客の目玉であったアジアゾウの死やここ数年続く酷暑の影響により、入園者は年々減少傾向にあり、近接する桐生新町重要伝統的建造物群保存地区（以下「重伝建地区」）への観光客の流れについても影響を及ぼし、地域内消費が減少していることが課題になっている。

事業概要

桐生が岡動物園内の、現在使用されていないゾウ舎の跡地に、全国唯一となる1階と2階の両階から立体展示を観覧可能なレッサーパンダの獣舎を建設して集客力の向上を図るとともに、現在同時進行で進める重伝建地区間の導線整備や、重伝建公開施設整備、空き店舗活用創業者への支援等と一体的に進めることで、人の流れを創出し、観光客の滞在時間を増加させ、地域への経済波及効果を高める。

獣舎は、様々な角度から間近で生体が観覧できるよう、吹き抜けスペースを活かした高さのある2階建てにし、頭上に吊り橋をかけてレッサーパンダを行き来させる立体展示を行う。2階部分は、レッサーパンダの観覧ホールやトイレと授乳室を備えた休憩所など、多目的スペースとする。

KPI等を踏まえた今後の改善点・見直しの方向性

新型コロナウイルス感染症による、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言に伴う臨時休園等の影響により、目標値は未達成となった。

しかしながら、令和4年3月25日から3頭のレッサーパンダの一般公開が始まり、多くの来園者から喜ばれている。

今後は、市公式YouTubelにおける動画配信やSNS等における情報発信を積極的に行い、集客力の向上に努めるとともに、今後桐生が岡遊園地における新規遊具の導入のほか、重伝建地区間との導線整備や「（仮称）重伝建公開活用施設」の整備が予定されていることから、桐生が岡公園と重伝建地区間の人の流れの創出を図ってまいりたい。

交付対象事業額(円)	実績額(円)
179,938,000	166,243,000

KPI (重要業績評価指標)		2019年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
観光入込客数(人)	目標値	4,143,000 (基準)	4,143,000	4,231,000	4,251,000	4,271,000	4,291,000
	実績値		未公表				
動物園入園者数(人)	目標値	327,940 (基準)	327,940	349,940	354,940	359,940	364,940
	実績値		↓234,980				
遊園地遊器具延利用者数(人)	目標値	875,381 (基準)	875,381	941,381	956,381	971,381	986,381
	実績値		↓664,044				

